77-20LR50000420

TEAC

取扱説明書

LP-R550

ターンテーブル/カセット付きCDレコーダー

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

目　次

準　備

基本操作

ラジオ

レコード

CD

テープ

録　音

その他

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社AVお客様相談室(裏表紙に記載)にご連絡ください。

取扱説明書(保証書付き)(本書)×1
ドーナツ盤用アダプター×1
RCAオーディオケーブル×1
ターンテーブルカバー×1
リモコン(RC-1173)×1
ヒンジ×2
簡単録音ガイド×1
乾電池(単3)×2
FMアンテナ×1
AMアンテナ×1

使用上の注意

- ターンテーブルの蓋の上には物を置かないでください。特に再生中は、振動でノイズが発生したり、物が落下する恐れがあります。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたまま近くにあるテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜け

万一、異常が起きたら

煙が出たり、変なにおいや音がするときは。
機器の内部に異物や水などが入ったときは。
この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。
すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。

禁止

電源コードを傷つけない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。
電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。

電源プラグにほこりをためない。
電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。

交流100ボルト以外の電圧で使用しない。
この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。

機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。
内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

分解禁止

この機器のキャビネットは絶対に外さない。
キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。

この機器を改造しない。
火災・感電の原因となります。

強制

この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。
ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
強制	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。** **また、接続は指定のコードを使用する。** それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器は約11kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	この機器の付属の電源コードセットを他の機器に使用しない。 故障、火災、感電の原因となります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
電源プラグをコンセントから抜け	**移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。** コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

 注意 乾電池に関する注意

禁止

乾電池は絶対に充電しない。
破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

 注意 電池に関する注意

強制

電池を入れるときは、極性表示(プラス⊕ とマイナス⊖ の向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。
間違えると破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

長時間使用しないときは電池を取り出しておく。
液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

禁止

指定以外の電池は使用しない。
新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。
破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

分解禁止

金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。
ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。

分解しない。
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

コンパクトディスクについて

本機で使用できるディスクの種類

音楽用の「DIGITAL AUDIO（デジタル オーディオ）」表示のあるCD、CD-RおよびCD-RWをお使いください。

(音楽録音用のCD-R/CD-RWの価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれています)

「DIGITAL AUDIO」表示のないコンピューター用のCD-RおよびCD-RWに録音することはできません。

使用できるディスク

音楽用のディスク

CD

音楽録音用のディスク

CD-R

CD-RW

パッケージに「音楽用」、「for MUSIC」等の表記があります。

- コンピューターなどを使用して記録されたコンピューター用のCD-R/CD-RWは、音声規格に従って正しく録音されていれば再生することができますが、本機で録音/アンファイナライズ/消去することはできません。

コンピューター用ディスクの見分け方

ディスクに「650MB」や「700MB」などのデータ容量表示があるものはコンピューター用です。音楽録音用にはデータ容量の表記はありません。

- 本機では音楽用CDフォーマット(CD-DA)で記録されたディスクのみ再生が可能です。MP3ファイルが記録されたディスクや、DVD、ビデオCD等のディスクは再生できません。

- 本機では音楽用CDフォーマット(CD-DA)以外で記録(録音)することは出来ません。

- コピーコントロールCDやDual Discなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

ディスクの取扱い

● ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。

● 信号録音面(レーベルがない面)に傷、指紋、汚れなどがあると、録音/再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。

● ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

取り出し方　　持ち方

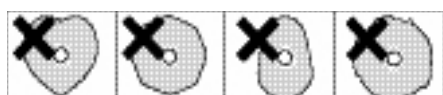
使用上の注意

● ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

● ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

● ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて録音/再生ができなくなる場合があります。

● 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。

● ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

お手入れ

● 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。

● レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

ディスクの保存について

● 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。

● 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形・変質して、再生できなくなるおそれがあります。

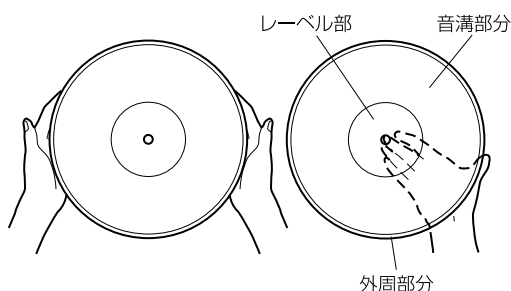
● CD-R/CD-RWは、通常のCDと比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。

● ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

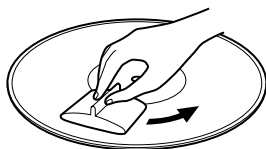
CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクのメーカーにお問い合わせください。

レコードの取り扱い

レコードの持ち方

● レコードを持つ時、ケースから取り出すときは、音溝部分に手を触れないように、レーベル部と外周部分を支えて持つか、両手でレコードの外周部分を手ではさむように持ってください。

お手入れ

● 指紋やほこりがつくと、雑音や音飛びの原因となり、レコードや針を傷めます。市販のレコードクリーナーなどでクリーニングしてください。レコードクリーナー以外のベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでくたさい。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

● レコードクリーナーを使用する場合は、音溝に沿って円を描くようにふき取ってください。

使用上の注意

● 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には置かないでください。長時間放置するとそりなどの原因となります。
● レコードは、何枚も積み重ねたり、重いものを載せたりしないでください。また、斜めにして長時間放置しないでください。そりや破損の原因となります。
● 音溝部は、硬いものに直接触れないようにしてください。傷の原因となります。
● 再生が終ったレコードは、必ずケースに入れて保管してください。そのまま放置すると、そりやキズの原因となります。
● ヒビが入ったレコードは使用しないでください。

レコード針の交換

● レコード針は精密な部品ですので、針先が曲がったり破損したりしないように、丁寧に扱ってください。曲がったり破損したりすると、音溝を正確にトレースできなくなり、レコードを傷めたり、故障の原因となります。

● レコード針が汚れたら、柔らかいブラシなどを使って、奥から手前側にブラシをかけてください。
硬いものを使用したり、強くこすったりしないでください。また、ベンジン、シンナーなどで拭かないでください。劣化の原因となります。

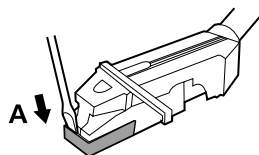
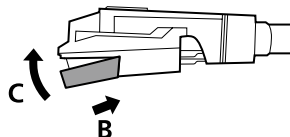
レコード針の交換

レコード針は、50時間ほど使用するとすり減って音が悪くなり、レコードを傷めます。お早めに当社指定の交換針にお取り換えください。

● 突然大きな音が出ることがありますので、機器の電源を切ってから交換してください。

● 手や機器を傷付けないよう、ご注意ください。

● 小さなお子様があやまってレコード針を飲み込まないよう、ご注意ください。

レコード針(赤い部分)を外す時は、カートリッジを手で押さえて、レコード針手前の段差部分を小さいドライバーなどを使ってAの方向に押し下げてから、手前に引いて外してください。

新しい針を取り付ける時は、Bの方向へ差し込んで針の爪部をカートリッジの爪受けに合わせ、Cの方向へパチンとはまるまで押し上げます。

交換針(別売)：
STL-103(3個入り)
SPL-102(2個入り、SPレコード専用)
交換用のレコード針については、お買い上げの販売店、または裏表紙のティアック修理センターまでお問い合わせください。

カセットテープについて

使用上の注意

- カセットを開けたり、テープを引き出したりしないでください。
- テープに直接手を触れないでください。
- ゴミやホコリの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用・保管は避けてください。
- スピーカーやテレビなど、磁石や磁気を帯びたものに近付けないでください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。

おすすめできないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。またテープが巻き込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、ご注意ください。

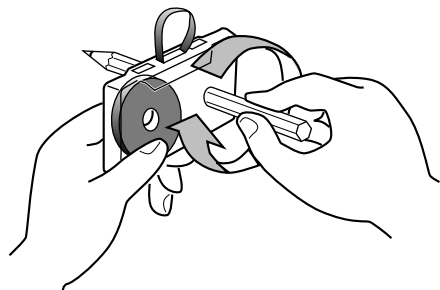
形状精度の悪いカセットテープ

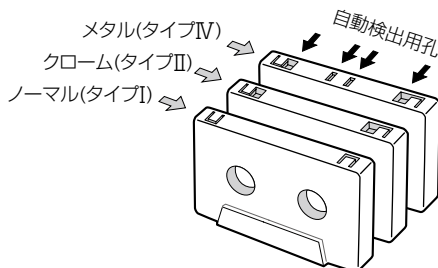
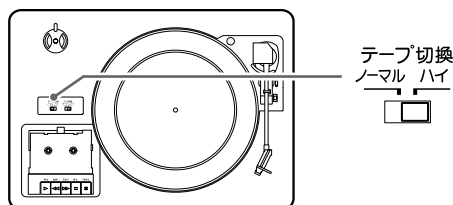
カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの、早送りや巻き戻し中に異音を生ずるもの。

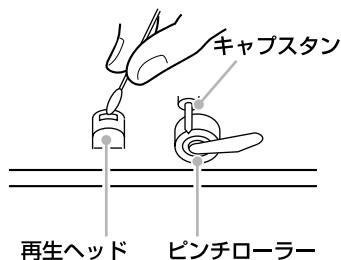
長時間テープ

90分以上のテープは大変薄くて伸びやすいため､キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。なるべくご使用にならないでください。

テープの「たるみ」

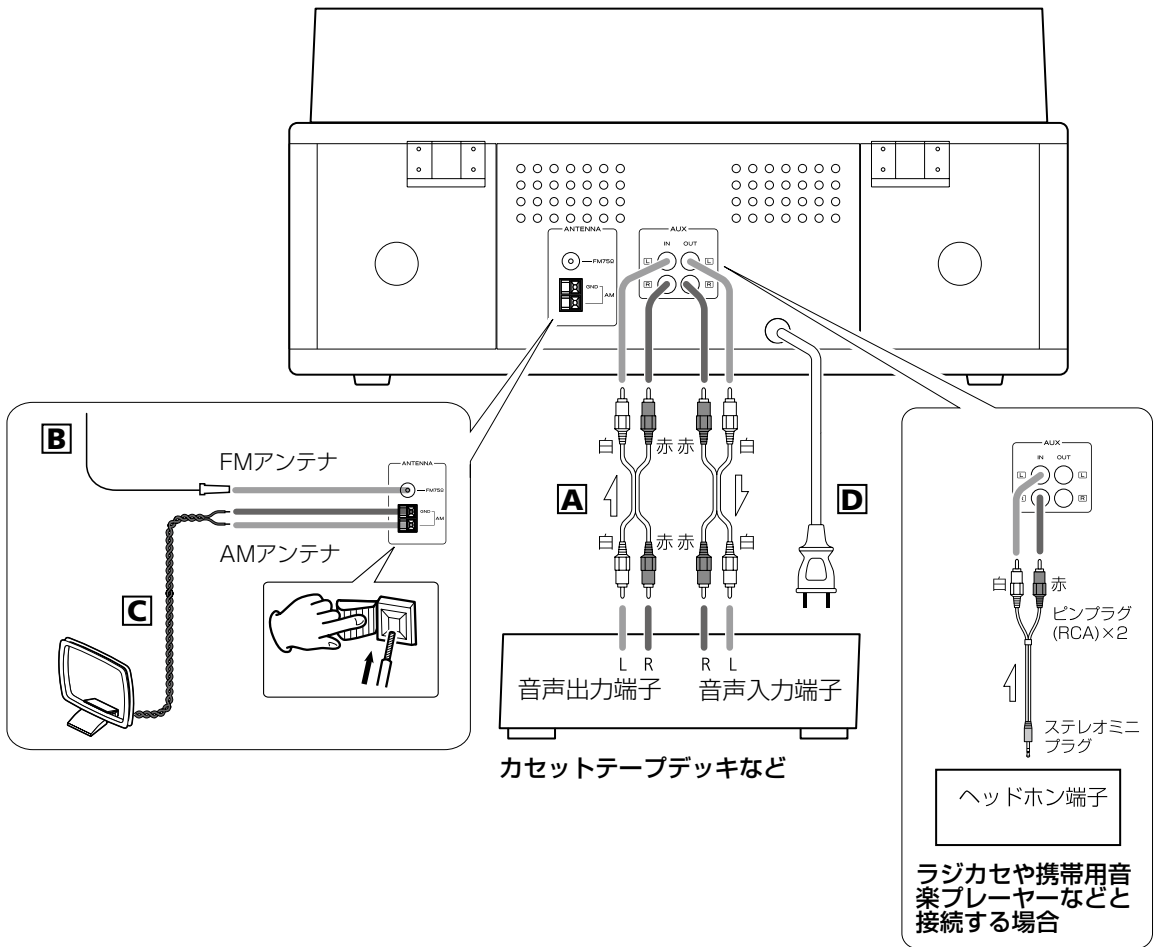
テープがたるんでいると、キャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻き取ってから使用してください。

テープの種類について

カセットテープにはいくつかの種類があります。

- ノーマルテープ(タイプⅠ)を再生する場合は、ターンテーブル横のテープ切換スイッチを「ノーマル」に、クロームテープ(タイプⅡ)/メタルテープ(タイプⅣ)を再生する場合は「ハイ」に切り換えてください。

お手入れ

ヘッド部が汚れると、再生の音質が悪化したり、音飛びの原因になります。また、テープ走行部の汚れは、テープの巻き込みなどを引き起こすことがあります。約10時間の使用を目安に、市販のクリーニング液を綿棒に含ませて、ヘッドとピンチローラー、キャプスタンを清掃してください。

- ヘッドのクリーニング液が乾くまで、カセットテープを入れないでください。

接続方法

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

A アナログ音声入出力端子 [AUX IN/OUT]

カセットテープデッキなどと接続すると、本機のスピーカーで音を聴いたり、本機の音をカセットに録音したり、またカセットの音をCD-R/CD-RWに録音したりできます。

付属のRCAオーディオケーブルを使って、白のピンプラグを白(L)端子に、赤のピンプラグを赤(R)端子に接続してください。

(入出力を同時に使用する場合、別途RCAオーディオケーブルをお求めください)

携帯用音楽プレーヤーなどのヘッドホン端子と接続する場合、「片端はステレオミニプラグ、もう片端はピンプラグ×2」のオーディオケーブル(市販品)を使って接続してください。

この場合、ラジカセやプレーヤー側の音量も調節してください。ただし、ラジカセやプレーヤーの音量を上げすぎると音が歪むことがありますので注意してください。

B FMアンテナ

付属のFMアンテナをFM75Ωジャックに差し込みます。FM放送の受信中にこのアンテナを伸ばして、受信状態が一番良い位置に画鋲やテープなどで固定してください。

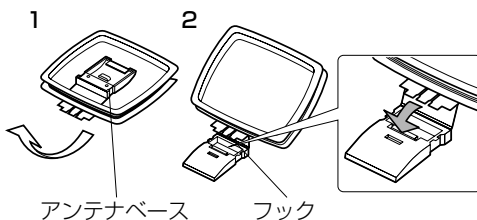
- アンテナは束ねないでください。

C AMアンテナ

付属のAMループアンテナを組み立て、アンテナから出ている2本のコードをAMアンテナ端子のGND端子ともう片方の端子に一本ずつ、接続します。

AM放送の受信中にこのアンテナを回して、受信状態が一番良い位置に置いてください。

AMアンテナの組み立て方

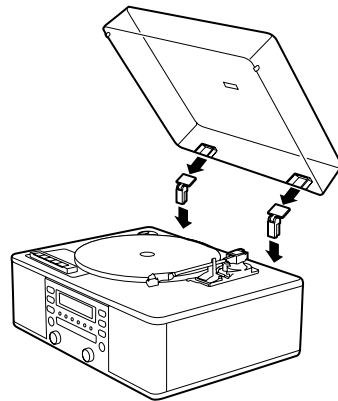
AMアンテナを組み立てるには、アンテナベースを矢印方向に回して起こし、アンテナループの下側のフックをアンテナベースの長穴に差し込んでください。

D 電源プラグ

電源プラグを交流100Vの電源コンセントに差し込んでください。

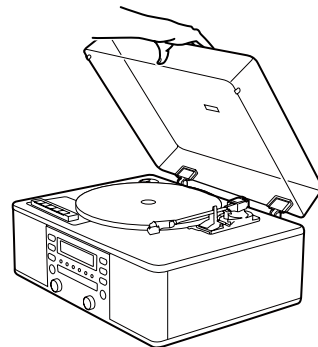
⚠ **交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**
電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。
長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

ターンテーブルカバー

ターンテーブルカバーの取付け

1. ターンテーブル背面の左右両端にあるヒンジ差し込み部にヒンジを合わせて、奥まではめ込みます。
2. ヒンジの上部にターンテーブルカバーのヒンジ差し込み部を合わせ、はめ込みます。

ターンテーブルカバーの外し方

ターンテーブルカバーの両端を持ち、ゆっくり上へ引き、ヒンジごとターンテーブルから外します。さらにターンテーブルカバーからヒンジを外します。

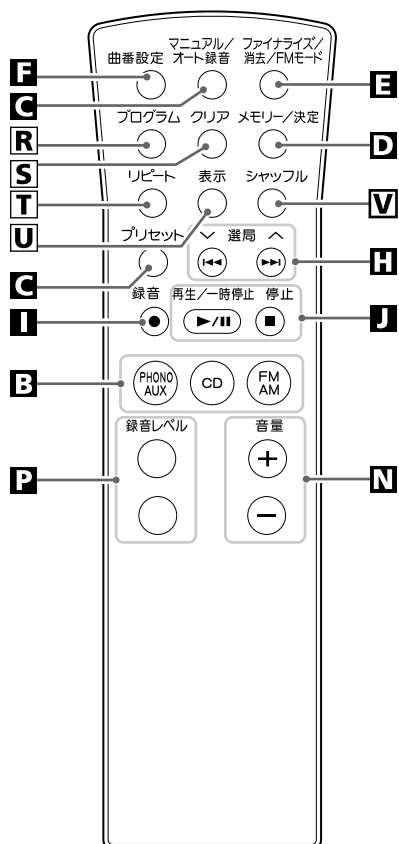
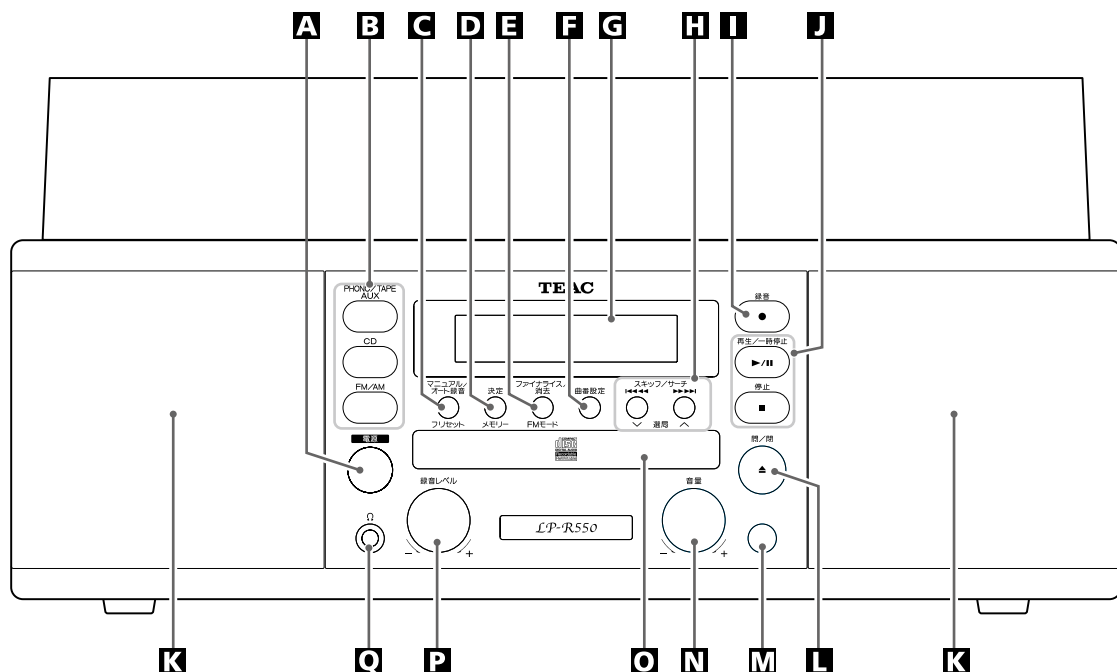
ターンテーブルカバーの開閉

開けるとき

ターンテーブルカバーの前端を持って、カバーが止まるまで軽く持ち上げて開きます。
ターンテーブルカバーは開いたままにの状態になります。

閉めるとき

ターンテーブルカバーが閉まる位置までゆっくりと下ろします。

⚠ **ターンテーブルカバーを開閉するときは、手などを挟まないようにご注意ください。**

各部の名称(本体とリモコン)

本体とリモコン

A 電源ボタン

電源のオン/オフを切り換えます。

B 機能切換ボタン (PHONO/TAPE/AUX、FM/AM、CD)

レコードを聴くとき

PHONO/TAPE/AUXボタンを押して「PHONO/TAPE」を選び、ターンテーブル横の入力切換スイッチを「レコード」にしてください。

カセットテープを聴くとき

PHONO/TAPE/AUXボタンを押して「PHONO/TAPE」を選び、ターンテーブル横の入力切換スイッチを「テープ」にしてください。

「AUX」端子で外部接続した機器の音を聴くとき

PHONO/TAPE/AUXボタンを押して「AUX」を選んでください。

ラジオを聴くとき

FM/AMボタンを押してください。FM/AMボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。

CDを聴くとき

CDボタンを押してください。

● リモコンのPHONO/TAPE/AUXボタンは、PHONO AUX と表記されています。

C マニュアル/オート録音・プリセットボタン

CDを録音するときは、曲番号を登録する方法(マニュアル/オート)を選択します。
ラジオを聴くときは、プリセットした放送局を選択します。

D 決定/メモリーボタン

ファイナライズ/消去をスタートします。
ラジオを聴くときは、放送局をプリセットします。

E ファイナライズ/消去・FMモードボタン

録音したCD-R/CD-RWをファイナライズします。
CD-RWに録音した曲を消去またはアンファイナライズします。
FM放送の受信中にこのボタンを押すと、ステレオ受信とモノラル受信を切り換えます。

F 曲番設定ボタン

録音中に押すと曲番を追加します。

G ディスプレー

曲番・時間・周波数などを表示します。

H スキップ/サーチ・選局ボタン

CDモードで押すと、前または後ろの曲にスキップします。CDの再生中に押したままでいると、早送り/早戻しできます。
ラジオを聴くときは、放送局を探すのに使用します。

I 録音ボタン

録音待機状態になります。

J CD操作ボタン

再生/一時停止(►/II)

停止/一時停止中に押すと再生/録音を開始します。
再生中または、録音中に押すと一時停止します。

停止(■)

再生または録音を停止します。

K スピーカー (ステレオ)

ここから音が出ます。
ステレオの音声をお楽しみいただけます。

L 開/閉ボタン

ディスクトレーを開閉します。

M リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をリモコン受光部に向けて操作してください。

N 音量つまみ

音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

O ディスクトレー

P 録音レベルつまみ

録音待機中に、録音レベルを調節します。
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

Q ヘッドホン端子

ヘッドホンをお使いになるときは、まず電源をオンにして音量を下げてから、ヘッドホンプラグ(φ3.5mmステレオミニプラグ)をヘッドホン端子に差し込み、徐々に音量を調節してください。

- ヘッドホンを耳にかけたまま、電源のオン/オフまたは、ヘッドホン端子の抜き差しを行わないでください。(ヘッドホンから大きい音が、発生することがあります)
- ヘッドホン端子の使用中は、スピーカーからは音が出ません。
- モノラルのイヤホンは使用しないでください。故障の原因になることがあります。

リモコンのみ

R プログラムボタン

CDのプログラム再生に使います。

S クリアボタン

プログラムした曲を削除します。

T リピートボタン

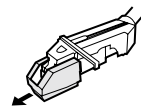
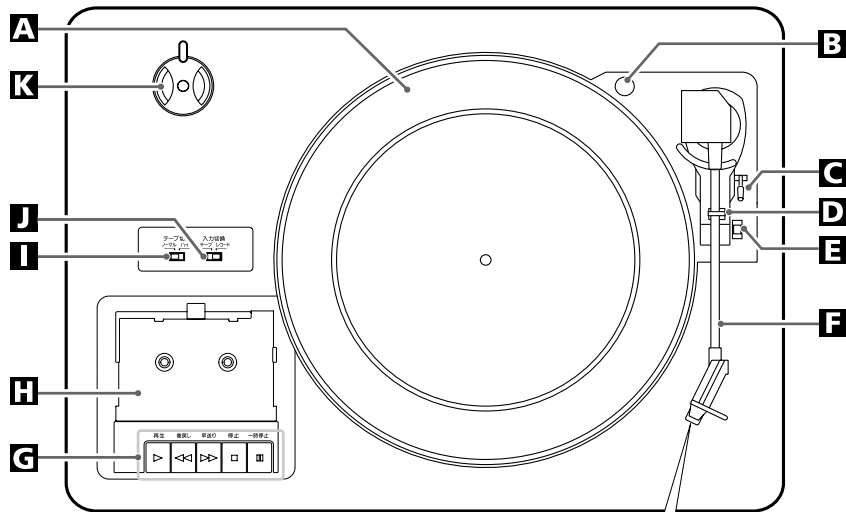
CDをリピート再生します。

U 表示ボタン

CDの録音/再生時、ディスプレーの表示を切り換えます。

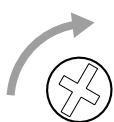
V シャッフルボタン

CDをシャッフル再生します。

各部の名称(ターンテーブル)

A ターンテーブル

レコードをターンテーブルの中心にはめてください。

B 輸送用ネジ

お使いになる前に、輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。

引っ越しなどで本機を輸送するときは、ネジを反時計回りに止まるまで回して固定してください。

C キューレバー

トーンアームをレコード盤から浮かせるときに使います。

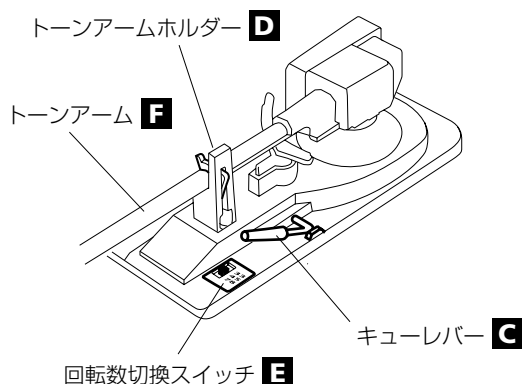
D トーンアームホルダー

トーンアームの支持台です。レコードを再生する前に、留め具を右にずらすようにしてはずしてください。

E 回転数切換スイッチ

レコードに合わせて回転数を切り換えてください。

F トーンアーム

トーンアームを内側へ動かすと、ターンテーブルが回り始めます。

G カセットテープ操作ボタン

再生(►)
テープを再生します。

停止(■)
テープを停止します。

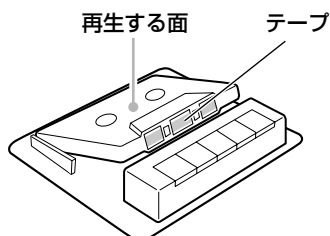
一時停止(❚❚)
再生を一時停止します。

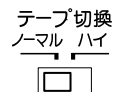
早送り(►►)
テープを早送りします。

巻き戻し(◄◄)
テープを巻き戻します。

> 再生ボタン(►)と巻き戻しボタン(◄◄)は絶対に一緒に押さないでください。カセットテープが急に停止して傷つくことがあります。

H カセットホルダー

テープが露出している側を手前に、再生する面を上にしてカセットをセットしてください。

I テープ切換スイッチ

ノーマルテープ(タイプⅠ)を再生する場合は「ノーマル」に、クロームテープ(タイプⅡ)/メタルテープ(タイプⅣ)を再生する場合は「ハイ」に切り換えてください。

J 入力切換スイッチ

機能切換でPHONO/TAPEを選んだときに、「テープ」と「レコード」を切り換えます。

> レコードまたはカセットテープの再生中は、必ず停止してから切り換えてください。レコードやカセットテープが急に停止して傷つくことがあります。

K ドーナツ盤用アダプター

ドーナツ盤を再生するときにお使いください。
アダプターを固定している部品は、横にスライドさせてください。

リモコンの使い方

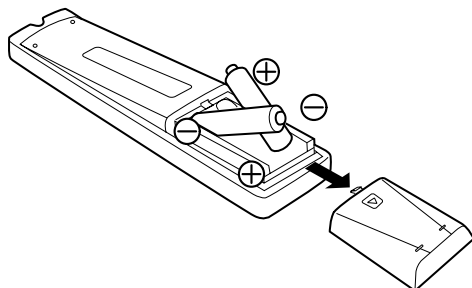
使用上の注意

● リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。

● 本体のリモコン受光部に日光や照明が干渉すると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。

● 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの+と_の表示に合わせて乾電池(単3形)2本を入れて、フタを閉めてください。

電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。
使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

⚠ 電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。5ページの注意をよく読んでご使用ください。

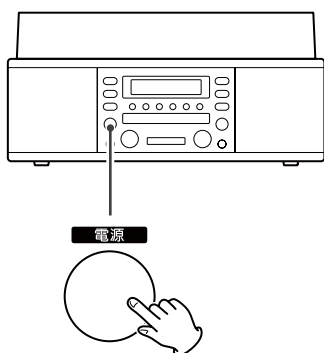
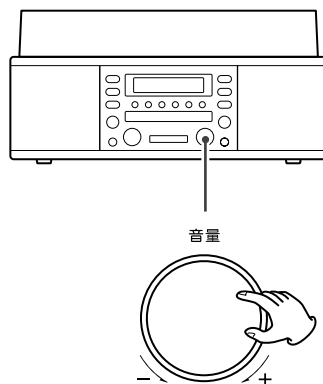
基本操作

1 電源ボタンを押して電源をオンにする。

ディスプレーが点灯します。

2 機能切換ボタンを押す。

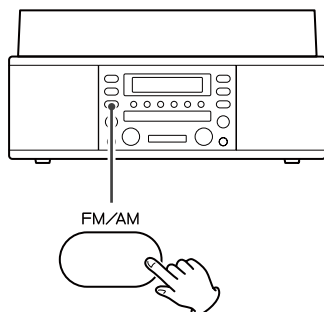
PHONO/TAPE/AUXボタンを押すたびにPHONO/TAPEとAUXが切り換わります。

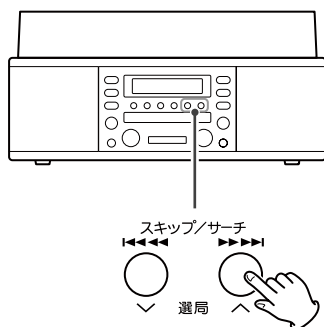
● PHONO/TAPEを選んだときは、ターンテーブル横の入力切換スイッチで「レコード」か「テープ」を選んでください。

3 音量つまみを回して音量を調節する。

音量は右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

⚠ **突然大きな音が出ると、聴覚障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、音を出してから適切な音量に調節するようにしてください。**

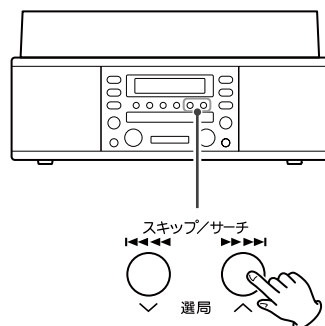
● 本機を使わないときは、電源ボタンを押して電源をオフにしてください。

ラジオを聴くには

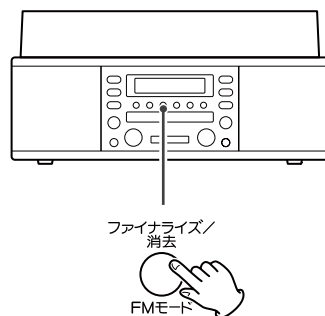
1 FM/AMボタンを押してFMまたはAMを選ぶ。

FM/AMボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。

2 選局ボタンを押して聴きたい放送局を探す。

周波数が変わり始めるまで選局ボタン(∨または∧)を押してください。(自動選局)

- 放送局を受信すると、自動的に選局が終わります。(ボタンを押し続けている間は、止まりません)
- 自動選局を中止したいときは、選局ボタン(∨または∧)を押します。

マニュアル選局

選局ボタン(∨または∧)を短く押すと、周波数は一定のステップで変わります。

聴きたい局が見つかるまで、選局ボタン(∨または∧)を繰り返し押してください。

FMモードボタン

FMモードボタンを押すとステレオモードとモノラルモードが切り換わります。

ステレオ

FMステレオ放送がステレオで受信されると、STEREOインジケーターが点灯します。

モノラル

FM放送の受信状態が悪いときに、このモードを選んでください。STEREOインジケーターは消灯します。強制的にモノラルで受信して、余分なノイズを減らします。

受信状態が悪いときは

AM放送

AM放送の受信状態が悪いときは、AMアンテナの向きを変えてみてください。

FM放送

FM放送の受信状態が悪いときは、FMアンテナの向きを変えてみてください。

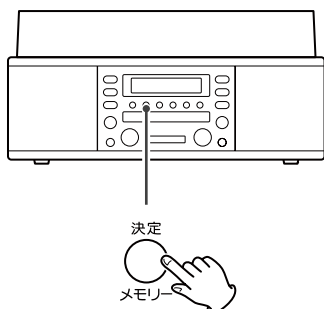
放送局のプリセット

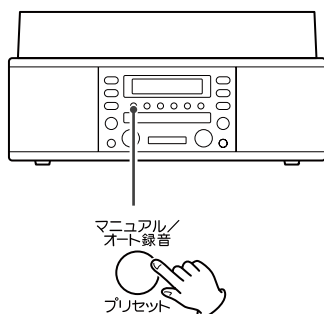
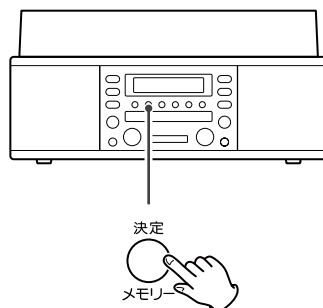
1から9のプリセットチャンネルに、よく聴くFM/AM局を各9局まで、登録できます。

1 **聴きたい放送局を受信する。**

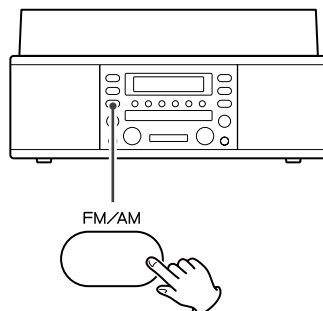
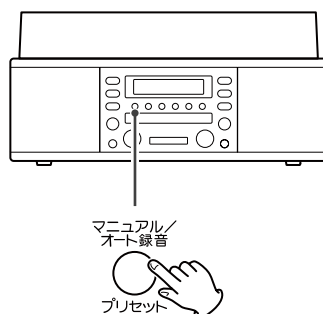
(18ページの手順**1**、**2**参照)

2 **メモリーボタンを押す。**

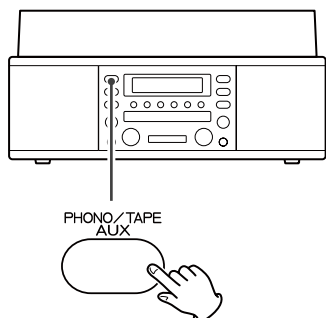
FMとMHz、またはAMとkHzが点滅します。

- メモリーボタンを押した後でも、他の局を選局し直せます。

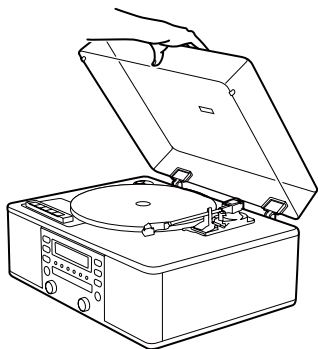
3 **プリセットボタンを押して、放送局を登録するプリセットチャンネルを選ぶ。**

4 **メモリーボタンを押す。**

放送局が登録され、FMとMHz、またはAMとkHzが点滅から点灯に変わります。
他の放送局をさらに登録するときは、手順**1**から**4**をくり返します。

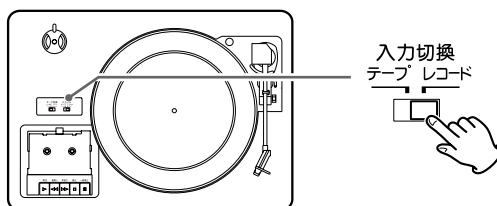
登録した放送局を聴くには

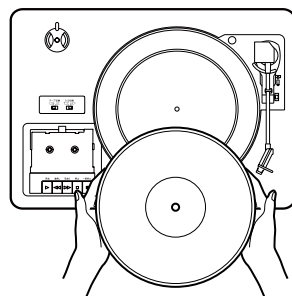
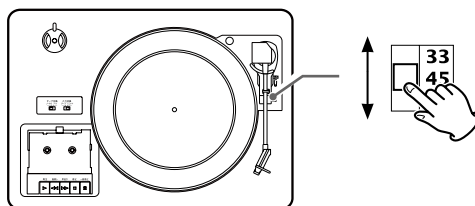
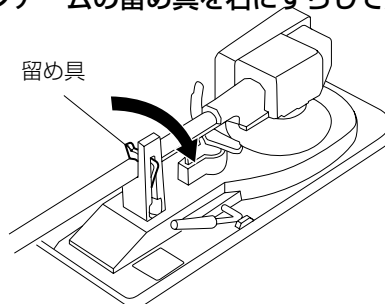
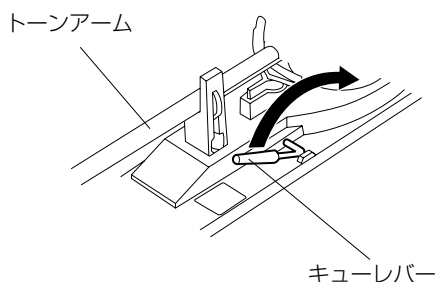
1 **FM/AMボタンを押してバンドを選ぶ。**

2 **プリセットボタンをくり返し押して、聴きたい放送局が登録されているプリセットチャンネルを選ぶ。**

レコードを聴くには

お使いになる前に、輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。レコード針のカバー(白いプラスチックの部分)を外してください。(14ページ)

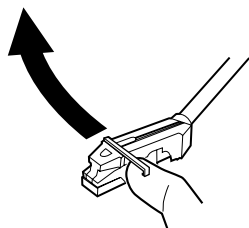
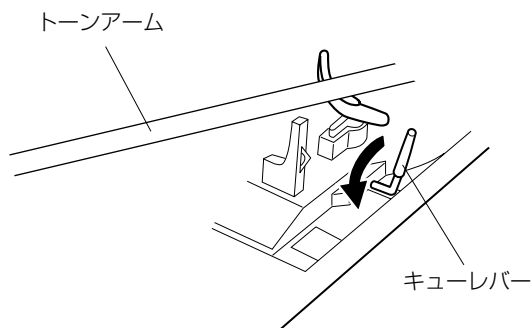
1 PHONO/TAPE/AUXボタンを押してPHONO/TAPEを選ぶ。

● PHONO/TAPE/AUXボタンを押すたびに、PHONO/TAPE(レコードまたはカセットテープ)とAUX(外部機器)が切り換わります。

2 ゆっくりとターンテーブルカバーを開ける。

⚠ ターンテーブルカバーを開閉するときは、手などをはさまないようにご注意ください。

3 入力切換スイッチでレコードを選ぶ。

4 ターンテーブルにレコードをのせる。

17cmドーナツ盤を再生する場合には、付属のドーナツ盤用アダプターをご使用ください。

5 レコード盤に合わせて回転数を選ぶ。

6 トーンアームの留め具を右にずらして外す。

7 キューレバーを上げて、トーンアームを浮かせます。

- キューレバーを下げたまま、トーンアームを浮かせた状態でレコードの上に移動してから、トーンアームをゆっくりと下げて再生を始めることもできます。

8 レコードの端、または再生したい箇所までトーンアームを移動する。

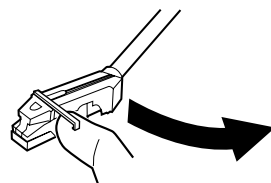
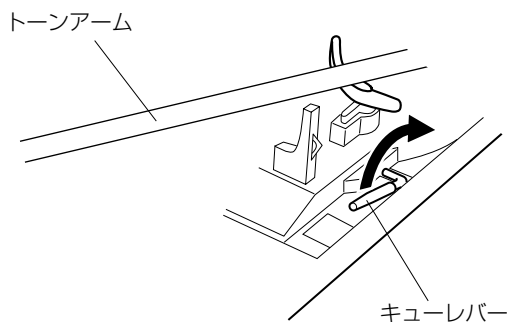
トーンアームを内側へ動かすと、ターンテーブルが回り始めます。

9 キューレバーをゆっくり下げてトーンアームをゆっくりと下ろす。

- レコードの再生中は、埃を防ぐためにターンテーブルカバーを閉めることもできます。

⚠ **ターンテーブルカバーの上には物を置かないでください。特に再生中は、振動でノイズが発生したり、物が落下する恐れがあります。**

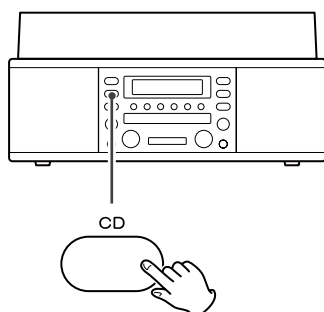
> レコードの再生時に音を大きくしすぎると、ハウリングが起こることがあります。その場合は、音量つまみを左に回して音量を下げてください。

再生が終わったら

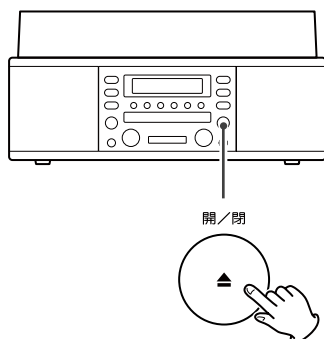
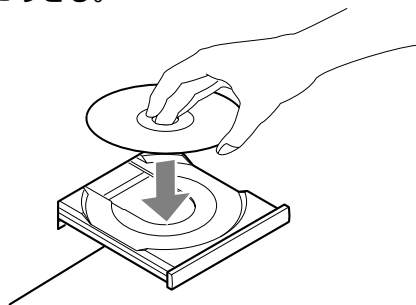
再生が終わると、トーンアームが自動的に元の位置に戻ってターンテーブルの回転が止まります(オートリターン機能)。

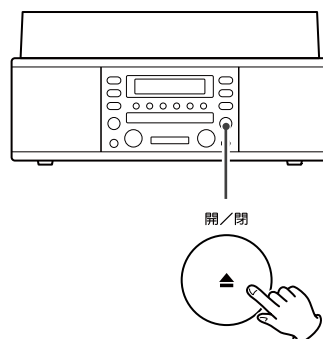
- 手動で再生を中断したいときは、キューレバーまたは指でトーンアームを持ち上げてから、トーンアームを元の位置に戻してください。

> レコードによっては、オートリターンしないことがあります。その場合は、手動でトーンアームを元の位置に戻してください。

CDを聴くには

1 CDボタンを押す。

「－－」が数秒間点滅します。ディスクがセットされていないときは、「no dISC」が表示されます。

2 開/閉ボタン(▲)を押して、トレーを開ける。

ディスクトレーが手前に出ます。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレーの中央にのせる。

- トレーには2枚以上ディスクをのせないでください。
- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレーを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレーが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレーの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。
- トレーの開閉動作中は、手で無理やり開け閉めしないでください。

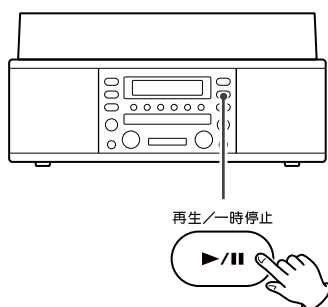
4 開/閉ボタン(▲)を押して、トレーを閉める。

ディスクトレーが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

- ディスクの読み込みには数秒かかります。ディスクの読み込み中は、ボタンを押しても機能しませんので、ディスプレーに総曲数と総再生時間が表示されるまでお待ちください。

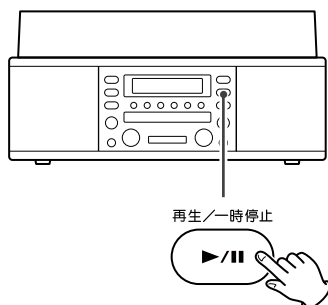
ディスクの種類

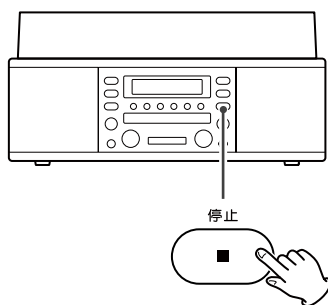
CD：	市販の音楽用CD
CD-R：	ファイナライズ済みのCD-R
CD-RW：	ファイナライズ済みのCD-RW
NO TOC CD-R：	ファイナライズされていないCD-R
NO TOC CD-RW：	ファイナライズされていないCD-RW
表示なし：	内容が検知できないディスク

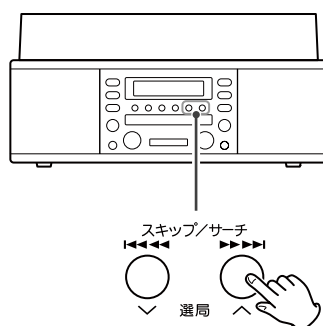
- 音楽用のディスク以外は、内容を検知して再生を始めることがありますが、音は出ません。

5 再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押す。

1曲目から再生が始まりディスプレーに►が点灯します。

- ディスクトレーを閉めずに再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押した場合、自動的にトレーが閉まり再生が始まります。

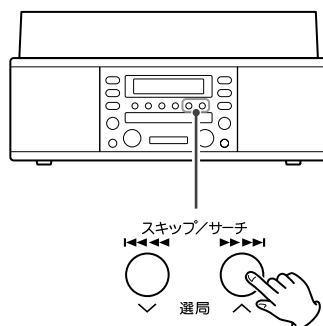
再生を一時停止するには

再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと再生が一時停止します。
一時停止中に再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押すと、一時停止したところから再び再生を始めます。

再生を停止するには

停止ボタン(■)を押すと再生が停止します。

好きな曲から再生するには(スキップ)

再生中にスキップ/サーチボタン(⏮◄◄/►►⏭)を押すと、前または後ろの曲にスキップして再生を始めます。希望する曲番になるまで、続けて押してください。

- 停止中は、スキップ/サーチボタン(⏮◄◄/►►⏭)で選曲したあと、再生/一時停止ボタン(❚❚/►)を押して再生を始めてください。

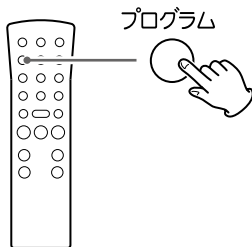
- 再生中は、⏮◄◄を1回押すと再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生したいときは、⏮◄◄を続けて押してください。

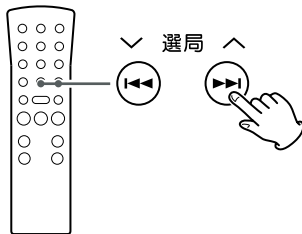
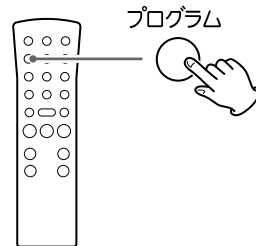
聴きたい部分を探すには(サーチ)

再生中にスキップ/サーチボタン(⏮◄◄/►►⏭)を押したままでいると、早送り/早戻しができます。聴きたい部分が見つかったら指をはなしてください。

プログラム再生

32曲までプログラムできます。

- プログラムする前に、CDボタンを押してディスクをセットしておいてください。
- プログラム再生中はシャッフル再生できません。
- ファイナライズされていないディスクは、プログラム再生できません。

1 停止中にプログラムボタンを押す。

プログラムインジケーター(PROGRAM)が点滅し、「P-01」(最初のプログラム番号)が表示されます。

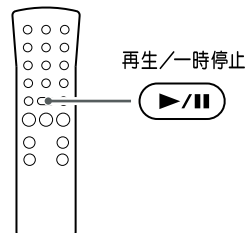
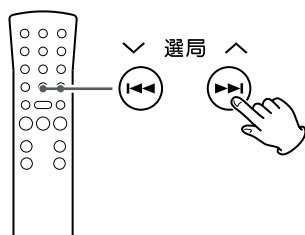
2 スキップ/サーチボタン(⏮◀◀/▶▶⏭)を使って、プログラムする曲を選ぶ。

3 プログラムボタンを押す。

選んだ曲がプログラムされます。

複数の曲をプログラムするときは、2と3をくり返してください。
別な曲を選ぶと再びPが点滅します。同じ曲を続けて選ぶときは、そのままプログラムボタンを押してください。

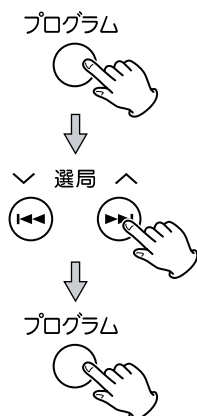
- プログラムを中止したいときは、停止ボタンを押してください。
- そのディスクに存在しない曲番はプログラムできません。

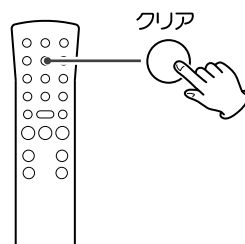
4 プログラムが終わったら、再生/一時停止ボタン(▶/⏸)を押す。

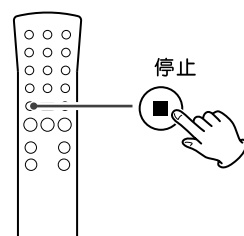
プログラム再生が始まります。

- PROGRAMインジケーターが点滅から点灯に変わります。

プログラムした内容を確認するには

停止中にスキップ/サーチボタン(⏮ ◀◀/▶▶ ⏭)をくり返し押すと、プログラムされた曲番が順番に表示されます。

● 曲番が表示されている時にクリアボタンを押すと、その曲番が削除されます。削除後、次の曲番が繰り上がります。

プログラムの最後に曲を追加するには

停止中にプログラムボタンを押してから、スキップ/サーチボタン(⏮ ◀◀/▶▶ ⏭)で曲を選び、もう一度プログラムボタンを押すと、プログラムの最後に曲が追加されます。

プログラムの最後の曲を削除するには

停止中にクリアボタンを押すと、プログラムの最後の曲が削除されます。

全てのプログラム内容を消去するには

停止中に停止ボタン(■)を押すと、プログラム内容は消去されます。

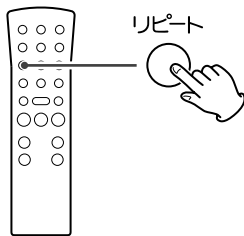
● 以下のボタンを押した場合も、プログラム内容は消去されます。

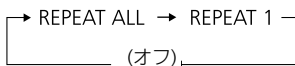
本体

開/閉ボタン
電源ボタン
FM/AMボタン
PHONO/TAPE/AUXボタン

リモコン

FM/AMボタン
PHONO/AUXボタン

リピート再生

リピートボタンを押すたびに、リピート再生のモードが変わります。

→ REPEAT ALL → REPEAT 1 →
(オフ)

REPEAT ALL(全曲リピート)

再生中にリピートボタンを押します。
再生中のディスクの全曲をくり返し再生します。

REPEAT 1(1曲リピート)

再生中にリピートボタンを2回押します。
再生中の曲をくり返し再生します。リピート再生中にスキップ/サーチボタン(⏮ / ⏭)を押して他の曲を選ぶと、その曲をくり返し再生します。

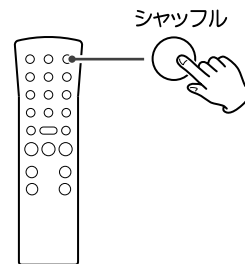
停止中は、リピートボタンを2回押してからスキップ/サーチボタン(⏮ / ⏭)で曲を選び、再生ボタンを押すと、1曲リピート再生を始めます。

● 以下のボタンを押すとリピート再生は解除されます。

本体
開/閉ボタン
電源ボタン
FM/AMボタン
PHONO/TAPE/AUXボタン

リモコン
FM/AMボタン
PHONO/AUXボタン

● ファイナライズされていないディスクは、リピート再生できません。

シャッフル再生

停止中にシャッフルボタンを押してから再生ボタンを押すと、ディスクの全曲をランダムに再生します。

全曲のシャッフル再生が終わると、再生を停止します。

● シャッフル再生中に ⏭ ボタンを押すと、次の曲がランダムに選択されます。⏮ ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。シャッフル再生中は、再生が終わった曲には戻れません。

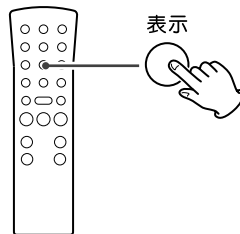
● プログラム再生中はシャッフル再生できません。

● 以下のボタンを押すとシャッフル再生は解除されます。

本体
開/閉ボタン
電源ボタン
FM/AMボタン
PHONO/TAPE/AUXボタン

リモコン
FM/AMボタン
PHONO/AUXボタン
停止中にシャッフルボタンを押した場合

● ファイナライズされていないディスクは、シャッフル再生できません。

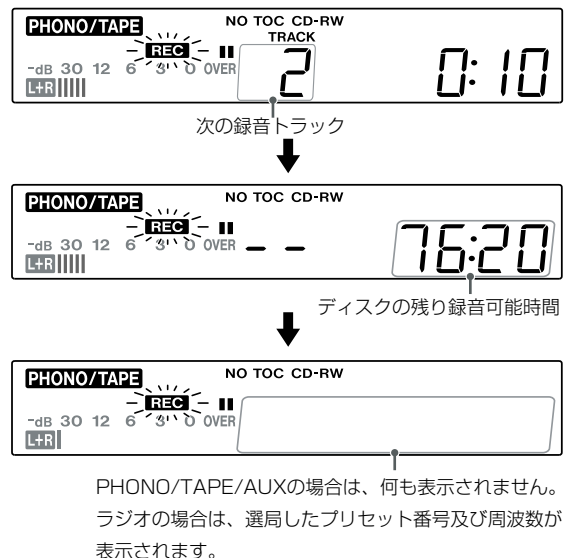
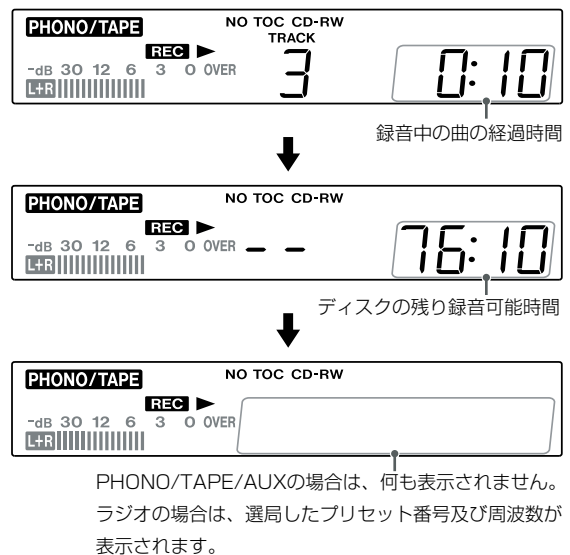
ディスプレーの表示

CDの再生中、録音中または録音待機中にリモコンの表示ボタンを押すと、ディスプレーの表示が切り換わります。

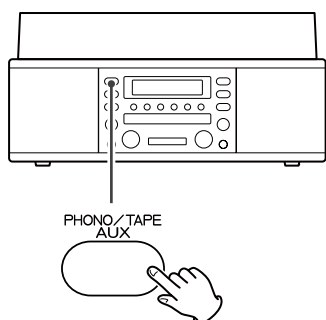
CD/CD-R/CD-RW （再生中）

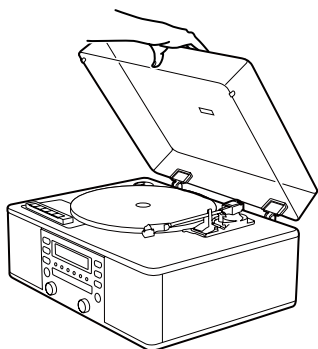
録音待機中

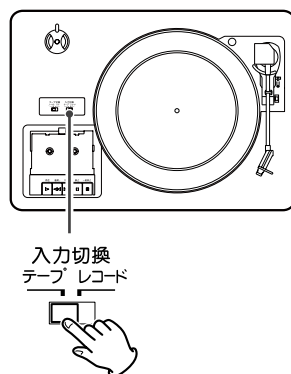
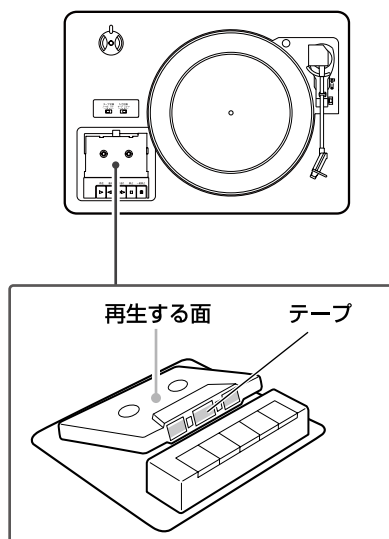
PHONO/TAPE/AUXの場合は、何も表示されません。ラジオの場合は、選局したプリセット番号及び周波数が表示されます。

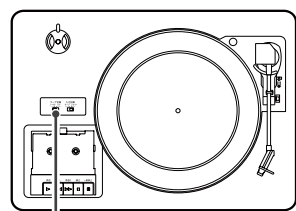
録音中

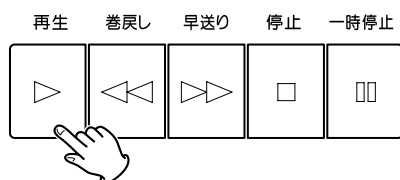
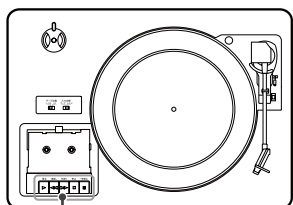
PHONO/TAPE/AUXの場合は、何も表示されません。ラジオの場合は、選局したプリセット番号及び周波数が表示されます。

カセットテープを聴くには

1 PHONO/TAPE/AUXボタンを押してPHONO/TAPEを選ぶ。

● PHONO/TAPE/AUXボタンを押すたびに、PHONO/TAPE(レコードまたはカセットテープ)とAUX(外部機器)が切り換わります。

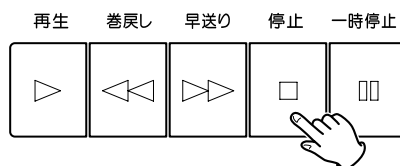
2 ゆっくりとターンテーブルカバーを開ける。

⚠ **ターンテーブルカバーを開閉するときは、手などをはさまないようにご注意ください。**

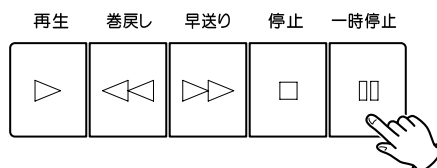
3 入力切換スイッチで「テープ」を選ぶ。

4 録音済みのカセットテープをカセットホルダーにセットする。

テープが露出している側を手前に、再生する面を上にしてカセットをセットしてください。

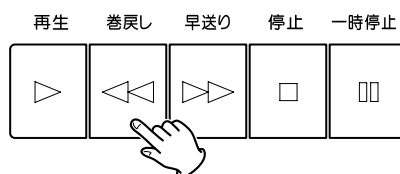
5 テープ切換スイッチを切り換える。

ノーマルテープ(タイプⅠ)を再生する場合は「ノーマル」に、クロームテープ(タイプⅡ)/メタルテープ(タイプⅣ)を再生する場合は「ハイ」に切り換えてください。

6 再生ボタン(►)を押す。

再生が始まります。
片面の再生が終わると停止します。別な面を再生するときは、カセットを裏返してください。

再生を停止するには

再生中に停止ボタンを押すと、再生が止まります。

一時停止するには

再生中に一時停止ボタンを押すと再生が一時停止します。もう一度押すと、再び再生を始めます。

早送り/巻き戻し

早送りまたは巻き戻しボタン(◄◄/►►)を押すと、テープを早送り/巻き戻しします。

早送り/巻き戻しを中断するときは停止ボタンを押してください。

再生ボタン(►)と巻き戻しボタン(◄◄)を同時に押さないでください。テープが正常に巻き取れず、からまってしまうことがあります。

テープの最後まで早送り/巻き戻しが終わっても、自動的に停止しません。忘れずに停止ボタンを押して止めてください。

録音するときの注意

- 本機で録音するときは、音楽用の「DIGITAL AUDIO（デジタル オーディオ）」表示のあるCD-RまたはCD-RWをお使いください。
  コンピューター用のCD-R/CD-RWに録音することはできません。(6ページ)
- 録音済みのCD-Rでは、録音した曲は消去できません。
- 録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。
- ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください。(36ページ)
  CD-RWディスクの場合は、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すればくり返し使用することができます。ただし消去できるのは、全ての曲、または最後に録音した曲だけです。途中の曲だけを消去することはできません。
- CDの規格により、99曲までしか録音できません。99曲目の録音を終えて、次のトラックをインクリメントすると、「dISCFULL」が表示されたあと自動的にファイナライズして停止します。
- CDの規格により、4秒以下の曲は録音できません。録音を開始してから4秒以内に停止ボタン(■)または再生/一時停止ボタン(►/❚❚)を押した場合は、4秒になってから停止します。その間は無音録音状態になります。
- 録音を停止すると、「REC」と「– – – – – –」が数秒間点滅します。録音中および「REC」と「– – – – – –」の点滅中は、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になると、自動的にファイナライズして停止します。
- 途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済みの部分の終わりから続けて録音されます。
- オートトラック機能を使う場合、本機は設定したレベルに従って曲を区切ります。そのため、冒頭や曲間に無音部分や雑音のあるソースを録音すると、一曲あたりの長さ(再生時間)やトラック数が一致しないことがあります。

CD-RとCD-RW

CD-Rディスクには一度だけしか録音できません。また、録音した曲を消去することもできません。
ただし、ファイナライズしていないディスクで録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。
録音が終わったCD-Rをファイナライズ(35ページ)すると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(ただし、一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります)

CD-RWディスクの場合は、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すればくり返し使用することができます。
ただし消去できるのは、全ての曲、または最後に録音した曲だけです。途中の曲だけを消去することはできません。
CD-RWは、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

デジタル録音するときのルール

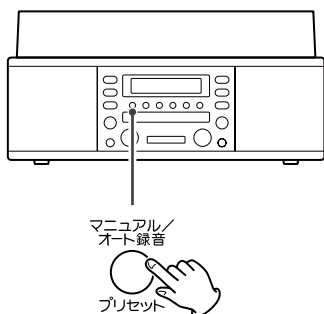
シリアルコピーマネージメントシステム
シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音すること(コピー)」を「1世代まで」と規制したものです。以下の原則があります。

「CD、MDなど市販のデジタル音楽ソフト」や、「アナログレコードやFM放送などをデジタル録音したもの」のコピーはできますが、コピーのコピーはできません。

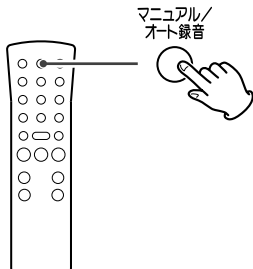
ファイナライズ

TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することをファイナライズといいます。
ファイナライズしたディスクには、録音することができません。ただしCD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。

(TOC：Table of Contents)

曲番のつけ方の設定

マニュアル/オート録音ボタンを1回押すと、現在の設定が表示されます。他の設定を選ぶ場合は、マニュアル/オート録音ボタンをくり返し押してください。

● 曲番のつけ方の設定は、PHONO/TAPE/AUX及びラジオを録音する際、ディスクトレーが閉じている時に変更できます。

● ラジオ放送を録音する時は、本機のマニュアル/オート録音ボタン(ラジオ受信時は、プリセットボタンになります)ではなく、リモコンのマニュアル/オート録音ボタンで設定してください。

● 録音中は、マニュアル/オート録音ボタンを押しても機能しません。
録音待機中は、マニュアル/オート録音ボタンを押すと設定の状態が表示されます。

● 本体の電源ボタンをオフ、または開/閉ボタン(▲)を押すと、設定は「マニュアル」にリセットされます。

ーー(マニュアル)

自動では曲番を付けません。
曲番を付けるには、録音中に曲番を付けたいところで曲番設定ボタンを押してください。(34ページ)
レコードやカセットテープなど、アナログのソースを録音する場合は、こちらを選んでください。

−20db、−30db、または−40db(オートトラック)

録音中に自動的に曲番を付けます。
入力信号が2秒以上続けて無音状態(−20dB、−30dB、または−40dB以下)になったあとに次の曲が始まった場合に、自動的に曲番を更新します。

−20dB、−30dB、または−40dBを選ぶと、AUTOインジケーターが点灯します。

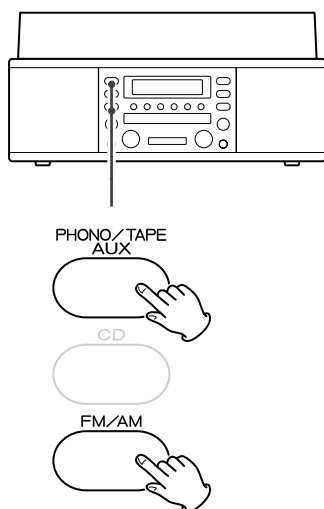
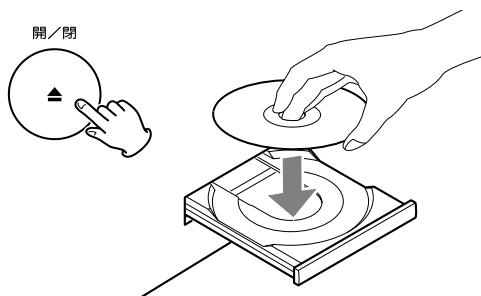
● 小さな音から始まる曲に曲番を付けるときに、−20dBだと曲の頭が欠けてしまう場合は、−30dBまたは−40dBに設定してみてください。

● 無音状態を検出するレベルは、
−40dB < −30dB < −20dB
の順で大きくなります。
雑音のあるソースを録音する場合は−20dB(またはマニュアル)、CDなど雑音の少ないソースを録音するときは−40dBを選んでください。

オートトラック設定で、雑音が多いソースやアナログのソースを録音すると、曲番が多く付き過ぎてしまうことがあります。その場合は、マニュアル設定を選び、曲番を付けたいところで曲番設定ボタンを押してください。

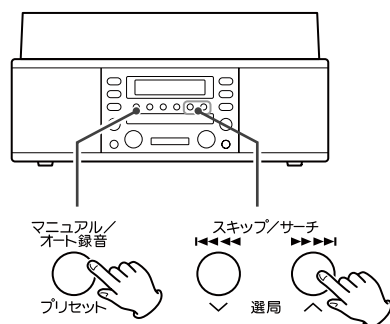
録　音

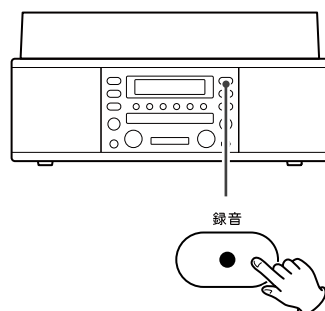
PHONO(レコード)、TAPE(カセットテープ)、またはFM/AM(ラジオ)、AUXの音をCD-RまたはCD-RWに録音することができます。
本機のCDの音を録音することはできません。

1 PHONO/TAPE/AUXボタンまたは、FM/AMボタンを押して録音ソースを選ぶ。

- レコードまたはカセットテープを録音する場合は「PHONO/TAPE」を選び、ターンテーブル横の入力切換スイッチで希望のソースに切り換えてください。
- AUX端子に接続した機器の音を録音する場合は、「AUX」を選んでください。

2 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットする。

開/閉ボタン(▲)を押すとディスクトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてから、開/閉ボタン(▲)を押してトレーを閉めてください。ディスプレーに「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は録音できません。

- コンピューター用のCD-R/CD-RWに録音することはできません。必ず音楽用の「DIGITAL AUDIO」表示のあるCD-R/CD-RWをお使いください。(6ページ)
- 必要に応じて、曲番のつけ方の設定を行ってください。(31ページ)

FM/AMラジオを録音する場合

1でFM/AMボタンを押して、FMまたはAMを選んでください。
プリセットボタンまたはスキップ/サーチ・選局ボタン(18ページ)を押して、録音したい放送局を選びます。
次のステップの3の録音待機状態後では、選局が行えません。2の段階で録音する放送局を選んでください。

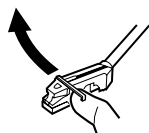
3 録音ボタンを押し、録音待機状態にする。

録音ボタンを押すと録音待機状態になり、録音ボタンの中心が赤く点滅します。また、ディスプレーの「REC」が点滅、「❚❚」が点灯します。

- 録音ボタンを押したあと、「bUSY」の表示中は他のボタンを押しても機能しません。「bUSY」が消えるまでお待ちください。
- 録音ボタンが赤く点滅しない場合は、2に戻って録音可能なディスクに交換してください。
「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケータが点灯するまで数秒間待ち、その後録音ボタンを押してください。

● 必要に応じて、「録音レベルの調節」を行ってください。(34ページ)

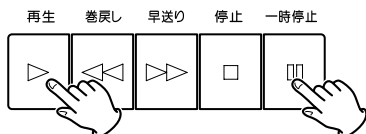
4 録音するソースを準備する。

レコードを録音する場合

1で「PHONO/TAPE」を選んで、入力切換スイッチ(15ページ)を「レコード」に切換えてください。
レコードの端、または録音したい箇所までトーンアームを移動して、ゆっくりと下してください。

トーンアームを内側へ動かすと、ターンテーブルが回り始めます。

● ターンテーブルが止まった状態だと、次のステップの5で再生/一時停止ボタン(►/II)を押しても録音できません。

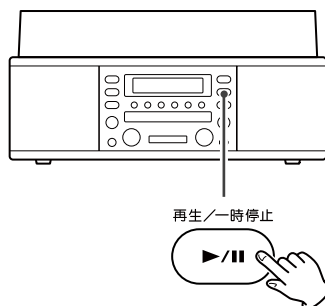
カセットテープを録音する場合

1で「PHONO/TAPE」を選んで、入力切換スイッチ(15ページ)を「テープ」に切換えてください。
カセットを再生または再生待機状態にしてください。

● カセットを再生するには、再生ボタン(►)を押してください。
● カセットを再生待機状態にするには、先に一時停止ボタン(II)を押してから、再生ボタン(►)を押してください。
● 録音するときに、曲の冒頭部分が切れないようにするには、カセットテープの頭出しをした後、カセットを再生待機状態にし、次のステップの5の録音をスタートしてからカセットの一時停止ボタン(II)を解除してください。
● カセットが停止状態だと、次のステップの5で再生/一時停止ボタン(►/II)を押しても録音できません。

AUX端子に接続した機器を録音する場合

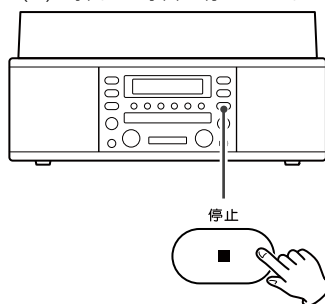
AUX端子に接続した機器の再生を始めてください。

● AUX端子に接続した機器から録音するときに、曲の冒頭部分が切れないようにするには、機器の頭出しをした後、一時停止にし、次のステップの5の録音をスタートしてから機器の一時停止を解除してください。
● AUX端子に接続した機器に一時停止の機能がない場合は、先に次のステップの5の録音スタートをしてから機器の再生を始めてください。

5 再生/一時停止ボタン(►/II)を押して録音を始める。

録音中は、録音ボタンの中心が赤く点灯します。

録音中および「REC」と「-----」の点滅中は、電源を切ったり電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

録音を停止するには

停止ボタン(■)を押すと録音が停止します。

レコードの再生が終わってターンテーブルの回転が止まるか、またはカセットテープの再生が終わると、録音も自動的に停止します。
トーンアームの動作音など余計な雑音を録音しないために、レコードまたはカセットテープの録音が終わり次第、停止ボタン(■)を押して録音を停止してください。

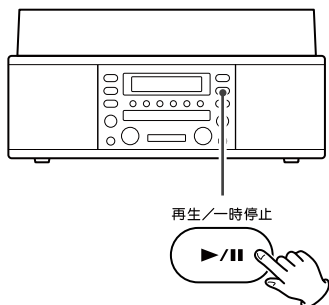
● 録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります。(35ページ)

録音を停止すると、ディスプレーに「REC」と「-End--」または「-----」が数秒間点滅します。
「REC」と「-End--」または「-----」の点滅中は、電源を切ったり電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

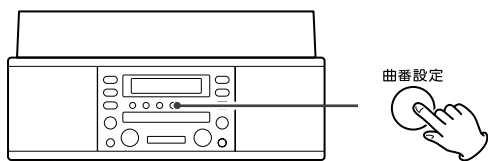
次ページに続く→

録　音（続き）

録音を一時停止するには

再生/一時停止ボタン(►/II)を押してください。

「bUSY」がディスプレーに表示され、録音が一時停止します。録音を再開するときは再び再生/一時停止ボタン(►/II)を押してください。

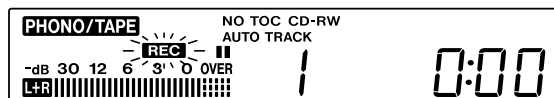
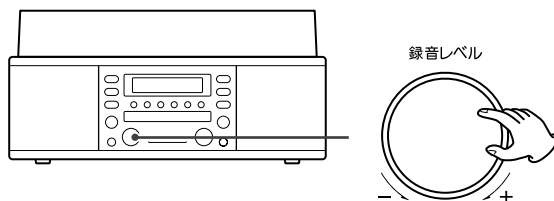
- 「bUSY」の表示中は録音を再開できません。
- 録音を一時停止または停止するたびに、新しい曲番が付きます。
- 録音開始後、4秒以内に停止ボタン(■)または再生/一時停止ボタン(►/II)を押した場合は、CDの規格上、4秒間の録音を行った後、停止/一時停止します。

録音中に手動で曲番を付けるには

録音中に曲番設定ボタンを押すと、押したところが曲の頭になって、曲番が付きます。

- 曲番設定ボタンは、マニュアル/オート録音の設定(31ページ)に関係なく使えます。
- CDの規格上、4秒以下のトラック分割はできません。また一枚のCDにつき99曲まで分割可能です。

録音レベルの調節

録音中にレベルメーターの「OVER」が点灯すると音が歪んでしまいます。33ページの手順**3**で、必要に応じて録音レベルを調節してください。

録音レベルつまみを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

録音レベルは、以下の範囲で調節できます。

最小		小	大	最大
− OO(− ∞) ←	− 60dB ←	0dB	→	18dB

- 停止ボタンを押すと、録音レベルは0dBにリセットされます。
- 録音するソース(レコード、カセットテープ、CDなど)によっては、音量に差があります。様々なソースを適切な音量で録音するためには、ソース毎に録音レベルの調節が必要です。

ラジカセや携帯用音楽プレーヤーのヘッドホン端子と本機のAUX端子を接続した場合

本機の録音レベルは0dBにしておいて、ラジカセや携帯用音楽プレーヤー側の音量を調節してください。携帯用音楽プレーヤーなどの音量を最大にしても、録音レベルが低い場合は、ピークレベルメーターを見ながら本機の録音レベルつまみを少しずつ右に回して調節してください。

ファイナライズ

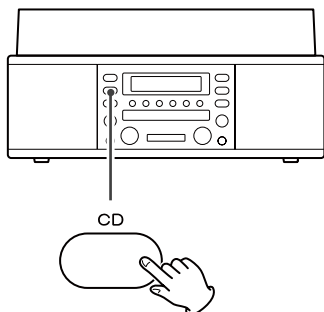
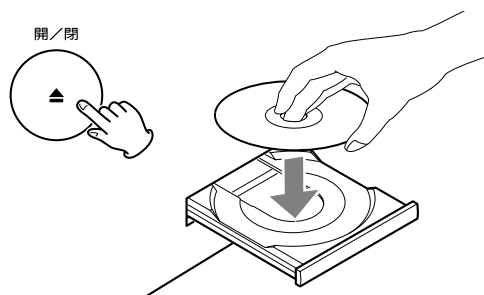
TOC(録音したデータの情報)をディスクに記録することをファイナライズといいます。

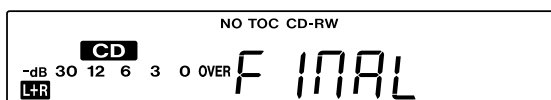
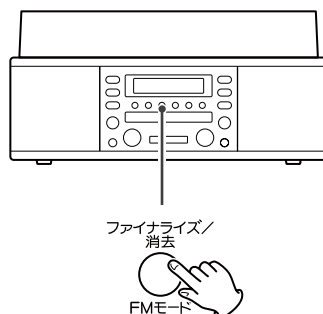
CD-Rをファイナライズすると、通常のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズされたCD-Rにはそれ以上録音することができません。

CD-RWをファイナライズすると、CD-RW対応のCDプレーヤーで再生できるようになります。ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、アンファイナライズしてください。(36ページ)

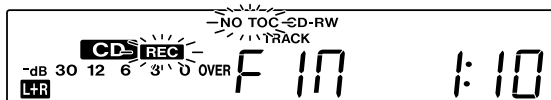
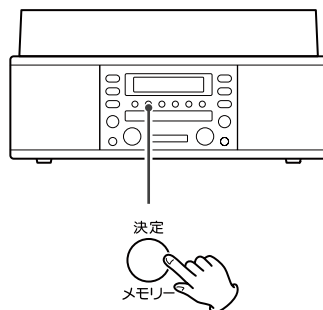
● 何も録音されていないディスクはファイナライズできません。

● 録音中でもディスクの録音時間が一杯になると自動的にファイナライズされます。ファイナライズ済みのディスクをさらにファイナライズすることはできません。

1 CDボタンを押す。

2 ファイナライズされていないディスクをセットする。

ディスプレーに「－－」が数秒間点滅しますので、消えるまでお待ちください。

3 ファイナライズ/消去ボタンを押す。

「FINAL」がディスプレーに表示されます。

● 中断したい場合は停止ボタン(■)を押してください。

4 決定ボタンを押して、ファイナライズを始める。

「NO TOC」と「REC」が点滅し、所要時間がディスプレーに表示されます。
ファイナライズが完了すると、「NO TOC」が消えて通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

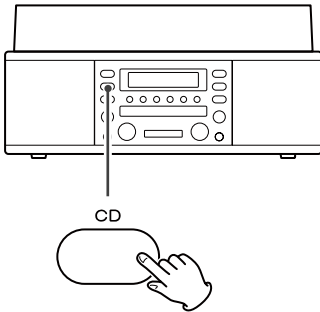
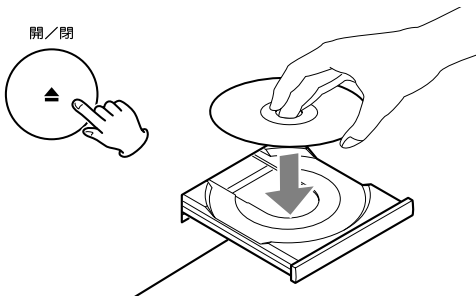
● ファイナライズ中は、ボタンを押しても機能しません。

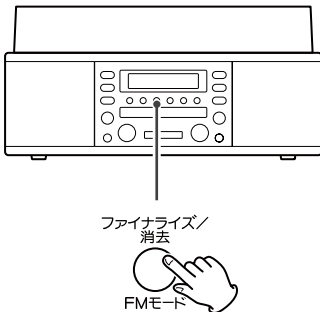
録音中および「REC」と「-----」の点滅中は、電源を切ったり電源プラグをコンセントから抜いたり、本機を揺らしたりしないでください。正しくファイナライズできなくなります。

CD-RWの消去とアンファイナライズ

CD-RWの「全ての曲」または「最後の曲」を消去することができます。
途中に収録された曲だけを消去することはできません。

ファイナライズ済みのCD-RWは、アンファイナライズすると、追加で録音したり曲を消去したりできるようになります。

1 CDボタンを押す。

2 CD-RWをセットする。

ディスプレーに「－－」が数秒間点滅しますので、消えるまでお待ちください。

3 停止中にファイナライズ/消去ボタンを押す。

ファイナライズ済みのディスクをセットした場合

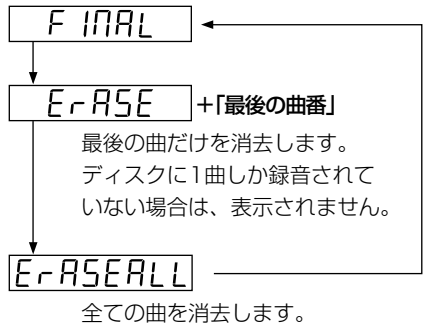
ディスプレーに「Un FInAL」が表示されます。

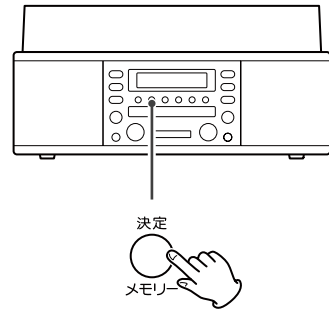
UnF InAL

ファイナライズされていないディスクをセットした場合

ディスプレーに「FInAL」と表示されます。
ファイナライズ/消去ボタンを押すたびに、ディスプレーの表示が次のように変わります。

ErASE：最後の曲だけを消去します。
ディスクに1曲しか録音されていない場合は、表示されません。

ErASEALL：全ての曲を消去します。

- ファイナライズ/消去ボタンは停止中にしか使えません。
- 中断したい場合は停止ボタン(■)を押してください。

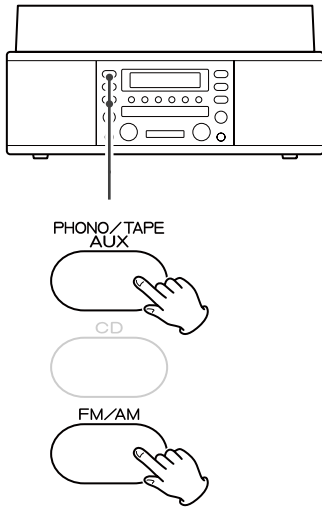
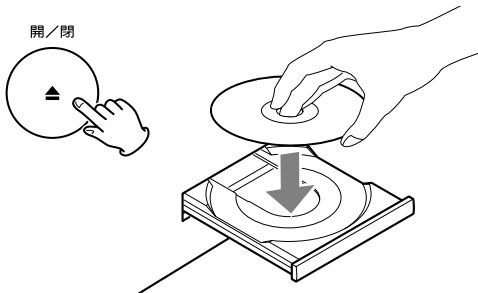
4 決定ボタンを押して消去またはアンファイナライズを開始する。

所要時間がディスプレーに表示されます。
消去/アンファイナライズが完了すると、通常の表示(総曲数と総再生時間)に戻ります。

- 消去/アンファイナライズ中は、全てのボタンが機能しません。
- 消去は取消しできません。曲を消去するときは、消去してもよい曲か確認してください。
- アンファイナライズ中は、ディスプレーに「NO TOC」が点滅し、アンファイナライズが完了すると点灯にかわります。

> 消去/アンファイナライズ中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。正しく消去/アンファイナライズできなくなります。

録音終了タイマー

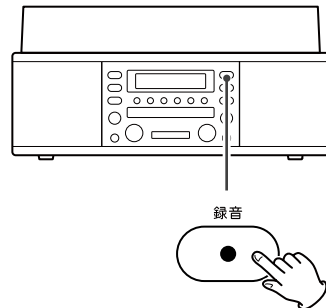
本機の録音終了タイマーで録音終了時間を設定して、ラジオやAUX端子に接続した機器の音声を録音することができます。

1 PHONO/TAPE/AUXボタンまたは、FM/AMボタンを押して録音ソースを選ぶ。

アナログ音声入力端子(AUX)に接続した機器の音を録音する場合は、AUXを選んでください。

2 録音用のCD-RまたはCD-RWをセットする。

開/閉ボタン(⏏)を押すとディスクトレーが開きます。ディスクのレーベル面を上にしてトレーにのせてから、開/閉ボタン(⏏)を押してトレーを閉めてください。

ディスプレーの「NO TOC」と「CD-R(またはCD-RW)」インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は録音できません。

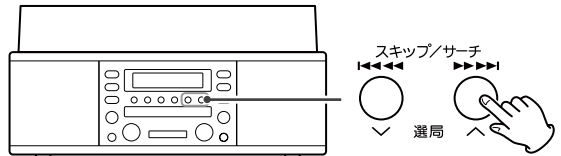
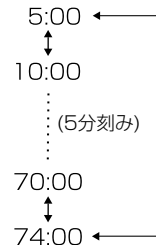
- コンピューター用のCD-R/CD-RWに録音することはできません。必ず音楽用の「DIGITAL AUDIO」表示のあるCD-R/CD-RWをお使いください。
- 曲番の付け方の設定(31ページ)、録音レベルの調節(34ページ)、放送局の受信、AUX端子に接続した機器の再生の準備などをしておきます。

3 録音ボタンを押し、録音待機状態にする。

録音ボタンを押すと録音待機状態になり、録音ボタンの中心が赤く点滅します。
ディスプレーの「REC」が点滅、「❚❚」が点灯します。

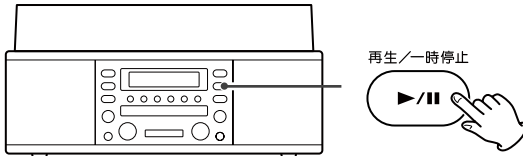
4 もう一度録音ボタンを押す。

録音終了設定時間

「OFF」と録音終了設定時間(分/秒)が表示されます。

5 スキップ/サーチボタン(⏮◀◀/▶▶⏭)を押して、録音を終了したい時間を選択する。

ボタンを押すたびに、5分刻みで設定時間が繰り上がり(または繰り下がり)ます。
ディスクの最大録音可能時間まで設定することができます。

- 設定した時間は本機に記憶されます。
次回設定時は、記憶されている時間が表示されます。
録音停止時間を変更したい場合は、手順1から5の操作を行ってください。

次ページに続く→

6 **再生/一時停止ボタン(►/II)を押して録音を始める。**

録音が始まると、録音終了設定時間の表示が動き始め、「00:00」になると録音を停止します。

- 録音が終わると、録音終了タイマーの設定は解除されます。
- 録音中は通常の録音と同じように、一時停止、曲番の追加が可能です。(34ページ)
- 停止ボタン(■)を押すと、録音(録音待機)状態が解除されます。
- 録音中にリモコンの表示ボタンを押す度に「録音終了までの残り時間」→「ディスクの残り録音可能時間」→「録音中のソース」を表示します。

オーディオタイマーで録音ON-OFF時刻を設定する

市販のオーディオタイマー (TT-200など)を使うと、設定した時刻に録音を開始して、設定した時刻に録音を終了することができます。

オーディオタイマーの操作については、オーディオタイマーの取扱説明書をご覧ください。

1 **本機の電源プラグをオーディオタイマーのアウトレットに接続する。**

2 **オーディオタイマーで、本機の電源をオンにする時刻とオフにする時刻を設定する。**

オーディオタイマーの電源ON時間
本機に録音用CD(CD-RまたはCD-RW)がセットされている場合、電源が入ってからディスクを読み込み、録音を開始するまで、約30秒ほどかかります。そのため、**オーディオタイマーの電源ON時間は、録音を開始したい時間より1〜2分早めに設定してください。**

オーディオタイマーの電源OFF時間
録音中にディスクの録音時間が一杯になると、自動的にファイナライズを始めます。**そのため、オーディオタイマーの電源OFF時間は、本機の録音終了タイマーの終了設定時間より3〜5分長く設定してください。**

3 **オーディオタイマーのアウトレットをオンにする。**

4 **本機の録音終了タイマーを設定する。**

(37、38ページ)の手順**1**から**5**の操作を行ってください。

5 オーディオタイマーのアウトレットをオフにする。

タイマーの設定時刻になると
本機の電源がオンになり録音が始まります。

↓

録音が始まると
録音終了タイマーが働き、録音終了設定時間の表示が動き始めます。

> 録音中は、電源を切ったり電源コードを抜いたりしないでください。CD-R(またはCD-RW)ディスクが正常に録音されず、使用できなくなる恐れがあります。

↓

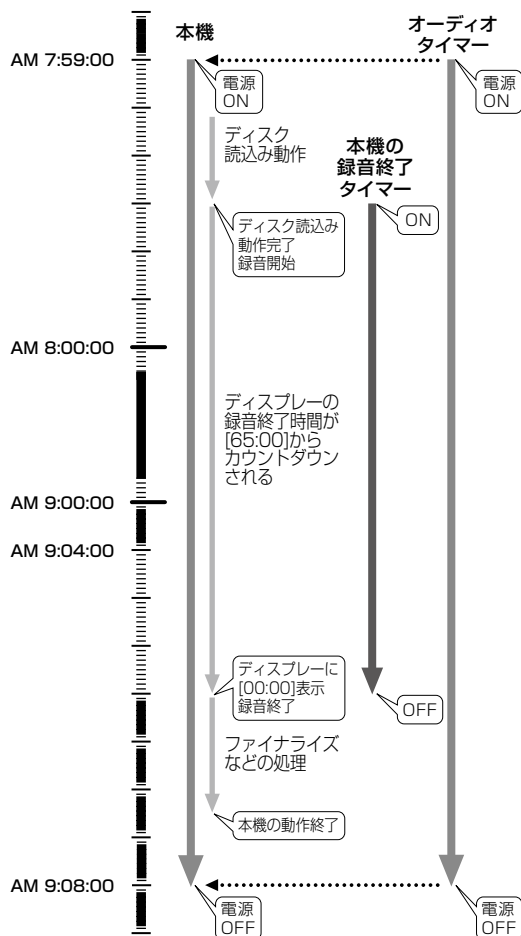
表示が「00:00」になると
録音を停止します。

↓

オーディオタイマーの電源オフ設定時刻になると
電源がオフになります。

オーディオタイマーと録音終了タイマーの設定時間の例

ラジオ放送を「AM8:00」〜「AM9:00」まで録音したい場合

本機の録音終了タイマーを「65:00」に設定
オーディオタイマーのON時間を「AM7:59」に、OFF時間を「AM9:08」に設定

オーディオタイマーのON設定時刻になると本機に電源が入り、ディスク読込み動作(約30秒)完了後、録音を開始します。それと同時に録音終了タイマーの設定時間の表示が動き始め、「00:00」になると録音を停止します。
その後、オーディオタイマーのOFF設定時刻で電源が切れます。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。

電源が入らない。

➡ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。電源ボタンを押して電源をオンにしてください。
(10、12ページ)

音がしない。

➡ 音量つまみを右に回して音量を調節してください。

リモコンで操作できない。

➡ 本体の電源ボタンを押して電源をオンにしてください。
➡ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から5メートル以内の距離で、本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

近くにあるテレビなどが誤動作する。

➡ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。その場合は、本機のリモコンを操作する間は他の機器の電源を切ってください。

雑音がする。

➡ テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

CDレコーダー

再生できない。

➡ ディスクをトレーの中心に正しくセットしてください。
➡ ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 何も録音されていないディスクが入っている場合は、録音されているディスクを入れてください。
➡ ディスクの品質や録音状態によっては、CD-R/CD-RWを再生できないことがあります。

音飛びがする。

➡ 震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。
➡ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡ 傷が付いたディスクは使わないでください。

録音できない。

➡ 音楽用のCD-R/CD-RWを使ってください。
➡ ファイナライズ済みのCD-Rには録音できません。ディスクを交換してください。
➡ CD-Rの録音残り時間が足りない場合は、ディスクを交換してください。
➡ ファイナライズ済みのCD-RWには録音できません。アンファイナライズするか、ディスクを交換してください。
➡ CD-RWの録音残り時間が足りない場合は、不要な曲を消去するかディスクを交換してください。
➡ 録音ボタンのみ押した状態では、録音待機状態になり録音はスタートしていません。必ず、再生/一時停止ボタン(▶/❚❚)を押して録音をスタートさせてください。

ラジオ

受信できない。受信状態が悪い。

➡ 選局ボタンを押して、放送を受信してください。
➡ FM放送の受信状態が悪いときは、FMアンテナを張り直してみてください。
AM放送の受信状態が悪いときは、AMアンテナの向きを変えてみてください。

カセットテープ

操作ボタンを押しても動作しない。

➡ カセットが入っていない場合はカセットを入れてください。
➡ カセットを正しく挿入してください。
➡ 入力切換スイッチを「テープ」にしてください。

音質が悪い。

➡ ヘッドを清掃してください。
➡ ヘッドが帯磁している場合は、ヘッド・イレーサーで消磁してください。
➡ テープ切換スイッチを使用するカセットテープに合わせてください。

レコード

再生できない。雑音が入る。

- ➡ レコード針のカバー(白いプラスチックの部分)を外してください。
- ➡ レコード針が汚れていたら、柔らかいブラシなどを使って、奥から手前側にブラシをかけてください。
- ➡ レコード針が摩耗していたら、交換してください。
- ➡ 入力切換スイッチを「レコード」にしてください。

音程がおかしい。

- ➡ レコードにあった回転速度を選んでください。

音飛びがする。

- ➡ 震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。
- ➡ レコードが汚れている場合は、レコードを拭いてください。
- ➡ 傷が付いたレコードは使わないでください。
- ➡ 輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、CDレコーダーの動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1〜2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

お手入れ

表面が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、表面を傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

メッセージ一覧

表示	内容
- -　- -:- -	ディスクを読み込み中です。
−40db、−30db、または−20db	オートトラックの設定値です。
bUSY	ディスクを読み込み中です。しばらくお待ちください。
CLOSE	ディスクトレーを閉めます。
d dISC	コンピューター用のCD-R/CD-RWに録音することはできません。本機で録音するときは、音楽用の「DIGITAL AUDIO」表示のあるCD-RまたはCD-RWをお使いください。
dISC Err	傷などがあるディスク、または規格外のディスクがセットされています。
dISCFULL	ディスクがいっぱいです。これ以上録音できません。
ErASE	CD-RWの最後の曲を消去します。
ErASEALL	CD-RWの全ての曲を消去します。
Err+数字	エラーが起きました。電源ボタンを押して電源をオフにし、約1分経ってからオンにしてください。
Err 03	ディスクに問題があります。電源を一旦オフにしてからオンにして、ディスクを交換してください。
Err 06	アンファイナライズできません。コンピューターなどで音楽用CD-RWに「Disc at once」記録されたディスクです。
FInAL	ファイナライズします。
nO dISC	ディスクがセットされていません。もしくは、ディスクのレーベル面を下にしてセットしています。
OPEn	ディスクトレーを開きます。
P-数字	プログラム番号です。
P-FULL	プログラムがいっぱいです。これ以上はプログラムできません。
TRACK 0 0:00	何も録音されていないCD-R/CD-RWがセットされています。
UnFInAL	CD-RWをアンファイナライズします。

ディスプレー表示ついて

ディスプレーに表示されるメッセージのアルファベットは、「D」→「d」、「N」→「n」などと表示されます。

仕　様

アンプ部

出力 . . . . 3.5W + 3.5W
周波数特性 . . . . .50Hz〜20kHz
入力感度/インピーダンス . . . . . . AUX：500mV/20kΩ

CDレコーダー部

再生可能ディスク . . . . CD、CD-R、CD-RW
録音可能ディスク . . . . 音楽用のCD-RとCD-RW
録音サンプリング周波数 44.1kHz
周波数特性 . . . . 20Hz〜20kHz(±3dB)
S/N比 . . . . 85dB以上(再生時)、75dB以上(録音時)

カセットテープ部

トラック形式 . . . . .4トラック2チャンネル・ステレオ
テープ速度 4.8センチ/秒
ワウ・フラッター 0.3%
周波数特性 . . . . 125Hz〜10kHz
S/N比 45dB

チューナー部

受信周波数(FM) . . . . 76MHz 〜90MHz
受信周波数(AM) . . . . .522kHz〜1,629kHz

レコードプレーヤー部

モーター. . . . . DCサーボモーター
ドライブ方式 . . . . ベルトドライブ
ターンテーブルスピード . . . . 33 1/3、45、78 rpm
ワウ・フラッター 0.3%以下
S/N比 50dB以上
カートリッジ . . . . .セラミックステレオタイプ
レコード針 STL-103
出力レベル . . . . 158〜348mV/50mm/秒、1kHz

スピーカー部

ユニット. 76mm
インピーダンス. 4Ω

一般

電源 . . . . 100V AC、50-60Hz
消費電力. 25W
外形寸法(幅、高さ、奥行)
470 x 230 x 390 mm (外形寸法は突起部を含む)
電源コードの長さ 1.6m
質量 約11kg
動作保証温度 . . . . 5℃〜35℃

付属品

取扱説明書(保証書付き)(本書)×1
ドーナツ盤用アダプター×1
RCAオーディオケーブル×1
ターンテーブルカバー×1
リモコン(RC-1173)×1
ヒンジ×2
簡単録音ガイド×1
乾電池(単3)×2
FMアンテナ×1
AMアンテナ×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から1年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

40ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
　　　　測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
　　　　その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
その他：製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：LP-R550
シリアルNo:
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

その他

保 証 書

品　名 および 型　名	ターンテーブル/カセット付きCDレコーダー LP-R550	
機　番		
保証期間	本　体	1　年

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載の弊社サービス部門またはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お買上げ日		年　月　日
お客様	お名前	
	ご住所	電話　(　)

販売店	所在地・名称 (印) 電話　(　)

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 本書の提示がない場合
   (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、弊社サービス部門にお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社　〒206-8530　東京都多摩市落合1-47

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

0570-000-701
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530　東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

0570-000-501
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-8
電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0609·MA-1482A